

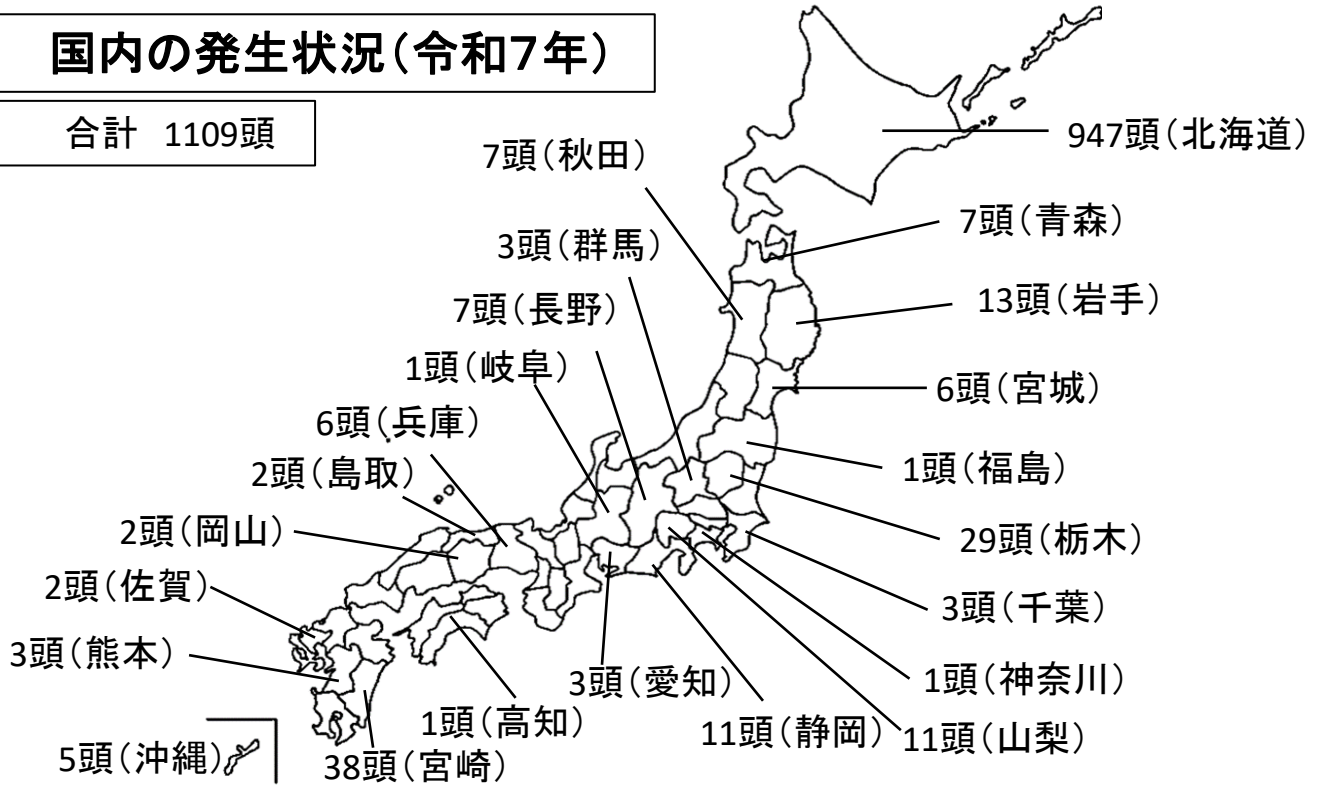
ヨーネ病の発生状況と効果的な対策

【ヨーネ病とは】

- ・牛、めん山羊などの反芻動物が細菌（ヨーネ菌）に感染し、数か月から数年間と長い潜伏期間の後に頑固な下痢、泌乳量の低下などを起こす疾病です。
- ・国内の発生は、平成29年以降、800～1,200頭の間で推移しています。
- ・岐阜県では、家畜伝染病予防法第5条に基づき、隔年で検査を行っています。また、県外から導入された牛については、農家等から検査の依頼をいただき、県内の発生予防とまん延防止に効果を上げています。

国内の発生状況(令和7年)

合計 1109頭



【県外導入牛の検査】

- ・県外から乳用牛、肉用繁殖牛（6ヶ月齢以上）を導入された場合、速やかに家保までご連絡ください。
- ・導入後、検査を行いますので、陰性が確認されるまでは、隔離して飼育を行ってください。

<従来行っている抗体検査：820円、遺伝子検査：2,820円>

※検査手数料がかかります。依頼者は検査方法を選択できます。

【予防対策など】

- ・治療法やワクチンは、ありませんので、定期的な検査による感染牛の早期摘発、淘汰が重要となります。
- ・日頃から、環境が病原菌に汚染されていることを疑い、敷料や牛糞は、そのまま草地などに還元せず、発酵温度65℃以上になるよう十分、切り返しを行い、堆肥化してから利用してください。

中央家畜保健衛生所 TEL:058-201-0530